

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	デイサービスクローバー学芸大学別邸			
○保護者評価実施期間	2025年12月11日		～	2025年12月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	3名
○従業者評価実施期間	2025/12/15		～	2025/12/21
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	2025/12/25			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	預かり型ではなく、自立に向けて、「どうやってコミュニティに参画できるか」から逆算した支援を行っています。子どもの将来の自立を支援するために、ソーシャルスキルトレーニング（SST）手法を取り入れ、療育に徹した支援展開を図っています。近隣施設とも連携し、「多世代との関わり」「コミュニケーション力向上」「学習」を軸に生活スキルの向上や社会性を育む取り組みを行なっています。	クローバーキッズ学芸大学とデイサービス学芸大学別邸では、集団と個別ニーズを合わせ、併用利用していただくことにより連携してプログラムを提供できています。別邸では、高齢者や20代、30代の若い職員との多世代の関わりを通して、第三者とのコミュニケーション力を身につけ、社会性を養います。	やりたいことやすべきことを信頼できる大人に相談しながら自己決定し、実現していく支援をします。「自分で判断し、行動できること」を第一に知識よりも思考力や判断力・行動力を重視し、主体的・協働的に動けるように支援するとともに、自己決定力を育てます。
2	職員は提供サービスに関連する資格取得を推奨し、外部研修後は、事業所内研修を実施し、情報共有することで能力向上が図られ、サービスの質向上につなげています。	より専門性の高いサービス提供の実現に向けて、児童発達支援管理責任者、保育士、介護福祉士など資格取得重要度が増し、職員が就労しながら資格を取得できるよう、組織としてバックアップ体制を構築しています。共同行動障害支援者養成研修は、順次、基礎研修、実践研修を必須で受講。更に、職員は、資格支援計画を作成したうえ、管理責任者と個別面談を行い、各研修費や受験料、奨学金などの支援を積極的に実施しています。研修後は、報告書を作成し、全職員が閲覧することで能力向上が図られ、サービスの質の向上につなげています。	
3	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。といった点について、高く評価いただいています。	デイサービスクローバー学芸大学別邸は、高齢者と子供の共生型施設です。“コミュニケーションが取れる人間になる。”という大きな目標に対して、クローバーキッズ学芸大学は、一人のお友達を作るところから始める場ですが、共生型施設は、子供同士のコミュニケーションだけでなく、高齢者、幅広い年齢層のキャスト（職員）等とのやり取りを通じて、得られる経験が加速度的にあがります。そのため、子供の年齢層も高めであり、だからこそ、出てくる問題がございます。そういったことを専門的に理解しつつ、相談支援所や学校等と連携しながら、対応させて頂いていることが評価されたのだと思います。大きくなるからこそその葛藤を理解しつつ、共生型の強みである温かい高齢者に見守っていただきながら、新しいチャレンジができる場として、更なる充実を図ってまいります。	

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域内連携について 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会というのが現状ございませんが、近隣にあるクローバーキッズ学芸大学とは、連携を模索しています。	高齢者や職員等、事業所内で、チャレンジすることも多く、近隣の児童館や児童クラブとの連携にはいっていません。	今後は、近隣にあるクローバーキッズ学芸大学とも連携しつつ、新しい経験につなげていく機会を創出していきたいと考えています。
2	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているという評価を頂いている一方で、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていないという返答も頂いております。	事業所外で起きたことを子供から聞いたりすることによって、状況の変化への理解に努めております。場合によっては、学校等々連携し、子供の話の背景の理解にも努めております。ただ、聞いたこと全てを保護者に伝えるのがよいのかどうか、という点は、悩ましい部分でもあります。もしかしたら、その点で、共通理解ができていないという指摘があるのかもしれませんが。年齢的に、いわゆる「反抗期」を迎える児童もあり、保護者の方とこどもで意見が対立することもございます。どちらが正しいと一概に言えないことも多く、私どもとしましては、引き続き、意見を合わせていくことではなく、相違があるなら、相違があるということをお互いに理解できるよう進めていきたいと考えております。	
3	管理者を支え、継続して事業の維持・発展を担当し、次代を担う職員の育成が図らなければならないと考えています。	当事業所では、保護者や行政当局、関係機関と密接な連携を保ち、職員の指導や事業継続のための記録の整備等にも取り組んでいます。児童発達支援管理責任者は、制度的に資格取得が難しくなっていますが、管理者を支え、継続して事業の維持・発展を担当し、次代を担う職員の育成が図ることが重要であると考えています。	